

食を伝える、食でつなげる

「未来へ残したい日本の食」標語コンテスト2020^{*1}で最優秀賞を受賞した「燕市食生活改善推進委員協議会」（以下、食推）の相場さんを紹介し、標語に込めた想いや日々の活動について伺いました。

「『夏祭り親子で作る笹だんご』シンプル過ぎるくらいに標語だったから、まさかと思っただけ。分かりやすかったのが良かったのかな」

食推として、地域や学校、保育園へ訪問し、人と食をつなぐ活動をしている相場さん。コロナ禍でイベントが開催できなかった昨年は、メンバーと新たに標語作りに挑戦。郷土料理をテーマに、自身の体験を盛り込みました。

「子どものころ、母がよく作ってくれた笹だんごを、今は食推として親子に伝える機会があったんです。参加した小学生の中に私より上手に笹だんごを結ぶ子がいて本当にびっくりして…。昔と今と、郷土料理が受け継がれていく場面に立ち会えた感動をこの標語に込めました」



あいば ひろこ
相場 洋子さん（吉田堤町）

●燕市食生活改善推進委員協議会 会員
【未来に残したい日本の食標語コンテスト2020 一般部門 最優秀賞受賞】



◀笹だんご作りの準備をする様子。自身も学びながら、食文化を次の世代に伝えることができますと言います（写真手前が相場さん）。

「食事運動も、学んだことをまず自分が実践。良いものはみんなに知ってほしいと声掛けも忘れません。」

「最近なら『ベジ足し^{*2}』がおすすです。手間をかけずに野菜をとれるから、特に普段料理をしない人にこそチャレンジしてほしい。何より自分で作ったものが一番おいしいんですよ」

コンビニなどで簡単に出来合いのものを買う今、料理は慣れない人にはハードルが高いもの。習慣化には初めの一歩が肝心です。

「まずは簡単なものでも自分で作ってみることが大事。認知症予防や健康について考えるきっかけになるから、料理と一緒に作って、知識や経験を伝えていきたいです。おいしく、楽しく交友関係も広がっていくと思います」

※1 未来に残したい日本の食標語コンテスト2020…家庭料理技能検定が主催する、テーマに沿った標語を募るコンテストで、今年のテーマは「郷土料理」。相場さんは、一般部門の応募の中から最優秀賞を受賞。

※2 ベジ足し…不足しがちな野菜を手軽に、習慣化してとることを目的とした活動。作成したパンフレットはこちら▶



紙上ブログ

燕市長 鈴木力



新型コロナウイルスの感染が止まりません。国では感染が拡大している都府県を対象に緊急事態宣言を行いました。

また、新潟県が中央地域の若者に対し特別なお願いを行いました。

燕市では、若者だけでなく高齢者の感染者も急増しています。市民の皆さまにおかれましては、あらためて一人ひとりが感染予防を自分事として捉え、それぞれのご家庭や職場で、より一層対策を徹底していただくようお願いいたします。

特に、やむを得ず感染拡大がみられる地域との往来については、今一度慎重な行動を心掛けてください。

▶こちらは有料広告です。

超高速光インターネット

NCT光

分水 エリア 2月 お申し込み受付開始!

※一部エリア・建物でサービスをご提供できない場合がございます。

3ヶ月まとめてギガおトク!!

- インターネット Wi-Fi 使い放題!
- ケーブルテレビ アンテナ 不要
- 固定電話 基本料・通話料がおトク!

0120-080-009 長岡市平場1丁目7-9 www.nct9.co.jp

【電話受付】9:00~18:00 (ドコモ光タイプCに関しては10:00~19:00)

※この広報紙は、環境にやさしいベジタブル・オイル・インクを使用しています。